KV-700/1000/3000/5000 CPU 直結ドライバ

1	システム構成	3
2	接続機器の選択	7
3	通信設定例	8
4	設定項目	41
5	結線図	46
6	使用可能デバイス	54
7	デバイスコードとアドレスコード	60
8	エラーメッセージ	63

はじめに

本書は表示器と接続機器(対象 PLC)を接続する方法について説明します。 本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

(株)キーエンス製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

シリーズ	シリーズCPUリンク I/F通信方式		通信方式	設定例	結線図
		CPU 直結 ¹	RS232C	設定例 1 (8ページ)	結線図 1 (46ページ)
		KV-L20	RS232C (ポート1接続)	設定例 2 (10ページ)	結線図 2 (48 ページ)
			RS232C (ポート2接続)	設定例 4 (14 ページ)	結線図 3 (49 ページ)
			RS422/485(4 線式) (ポート 2 接続)	設定例 6 (18 ページ)	結線図 4 (50ページ)
KV-700	KV-700		RS232C (ポート1接続)	設定例 3 (12ページ)	結線図 2 (48 ページ)
シリーズ	K V- 700	KV-L20R	RS232C (ポート 2 接続)	設定例 5 (16ページ)	結線図 3 (49 ページ)
			RS422/485(4 線式) (ポート 2 接続)	設定例 7 (20ページ)	結線図 4 (50ページ)
		KV-L20V ²	RS232C (ポート1接続)	設定例 8 (22ページ)	結線図 2 (48 ページ)
			RS232C (ポート 2 接続)	設定例 9 (24 ページ)	結線図 3 (49 ページ)
			RS422/485(4 線式) (ポート 2 接続)	設定例 10 (26ページ)	結線図 4 (50 ページ)
	KV-1000	CPU 直結 ¹	RS232C	設定例 1 (8ページ)	結線図 1 (46 ページ)
			RS232C (ポート1接続)	設定例 3 (12ページ)	結線図 2 (48 ページ)
		KV-L20R	RS232C (ポート 2 接続)	設定例 5 (16ページ)	結線図 3 (49 ページ)
KV-1000 シリーズ			RS422/485(4 線式) (ポート 2 接続)	設定例 7 (20ページ)	結線図 4 (50 ページ)
			RS232C (ポート1接続)	設定例 8 (22ページ)	結線図 2 (48 ページ)
		KV-L20V ²	RS232C (ポート2接続)	設定例 9 (24 ページ)	結線図 3 (49 ページ)
			RS422/485(4 線式) (ポート 2 接続)	設定例 10 (26ページ)	結線図 4 (50ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
	KV-3000	CPU 直結 ¹	RS232C	設定例 11 (28ページ)	結線図 1 (46 ページ)
KV-3000		KV-L20V ²	RS232C (ポート1接続)	設定例 12 (29 ページ)	結線図 2 (48 ページ)
シリーズ			RS232C (ポート 2 接続)	設定例 13 (31 ページ)	結線図 3 (49 ページ)
			RS422/485(4 線式) (ポート 2 接続)	設定例 14 (33 ページ)	結線図 4 (50 ページ)
	KV-5000	KV-L20V ²	RS232C (ポート1接続)	設定例 12 (29 ページ)	結線図 2 (48 ページ)
KV-5000 シリーズ			RS232C (ポート 2 接続)	設定例 13 (31 ページ)	結線図 3 (49 ページ)
			RS422/485(4 線式) (ポート 2 接続)	設定例 14 (33 ページ)	結線図 4 (50 ページ)
			RS232C (ポート1接続)	設定例 15 (35 ページ)	結線図 2 (48 ページ)
KV-5500 シリーズ	KV-5500	KV-L20V ³	RS232C (ポート 2 接続)	設定例 16 (37ページ)	結線図 3 (49 ページ)
			RS422/485(4 線式) (ポート 2 接続)	設定例 17 (39ページ)	結線図 4 (50ページ)

1 CPU上のモジュラーコネクタを使用します。

2 通信設定には KV STUDIO Ver.4 以降のラダーソフトが必要です。

3 通信設定には KV STUDIO Ver.6 以降のラダーソフトが必要です。

IPC の COM ポートについて

接続機器と IPC を接続する場合、使用できる COM ポートはシリーズと通信方式によって異なります。 詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

使用可能ポート

ミノリーブ		使用可能ポート	
	RS-232C	RS-422/485(4 線式)	RS-422/485(2 線式)
PS-2000B	COM1 ¹ , COM2, COM3 ¹ , COM4	-	-
PS-3450A、PS-3451A、 PS3000-BA、PS3001-BD	COM1, COM2 ¹ ²	COM2 ¹ ²	COM2 ¹ ²
PS-3650A(T41 機種)、 PS-3651A(T41 機種)	COM1 ¹	-	-
PS-3650A(T42 機種)、 PS-3651A(T42 機種)	COM1 ¹ ² , COM2	COM1 ¹ ²	COM1 ¹ ²
PS-3700A (Pentium®4-M) PS-3710A	COM1 ¹ COM2 ¹ COM3 ² COM4	COM3 ²	COM3 ²
PS-3711A	COM1 ¹ , COM2 ²	COM2 ²	COM2 ²
PS4000 ³	COM1、COM2	-	-
PL3000	COM1 ¹ ² , COM2 ¹ , COM3, COM4	COM1 ¹ ²	COM1 ¹ ²

1 RI/5V を切替えることができます。IPC の切替えスイッチで切替えてください。

2 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。使用する通信方式に合わせて、以下のように設定してください。

3 拡張スロットに搭載した COM ポートと接続機器を通信させる場合、通信方式は RS-232C の みサポートします。ただし、COM ポートの仕様上、ER(DTR/CTS) 制御はできません。 接続機器との接続には自作ケーブルを使用し、ピン番号 1、4、6、9 には何も接続しないで ください。ピン配列は IPC のマニュアルを参照してください。

ディップスイッチの設定:RS-232C

ディップスイッチ	設定値	設定内容	
1	OFF ¹	予約(常時 OFF)	
2	OFF	· 通信士士・BS 222C	
3	OFF	地后刀式, KS-232C	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード : 常に出力	
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
7	OFF	SDA(TXA)とRDA(RXA)の短絡:しない	
8	OFF	SDB(TXB)とRDB(RXB)の短絡:しない	
9	OFF	DS(DTS) 白動制御エニド・毎効	
10	OFF		

1 PS-3450A、PS-3451A、PS3000-BA、PS3001-BD を使用する場合のみ設定値を ON にする 必要があります。 ディップスイッチの設定:RS-422/485(4線式)

ディップスイッチ	設定値	設定内容	
1	OFF	予約(常時 OFF)	
2	ON	通信士士・BS 422/495	
3	ON	地后刀式, KS-422/483	
4	OFF	SD(TXD)の出力モード:常に出力	
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
7	OFF	SDA(TXA)とRDA(RXA)の短絡:しない	
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡:しない	
9	OFF	PS(PTS) 白動制御王 – ド・無効	
10	OFF		

ディップスイッチの設定: RS-422/485(2線式)

ディップスイッチ	設定値	設定内容	
1	OFF	予約(常時 OFF)	
2	ON	· 通信士士・BS 400/495	
3	ON	通信力式 . KS-422/483	
4	OFF	SD(TXD)の出力モード:常に出力	
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
7	ON	SDA(TXA)とRDA(RXA)の短絡:する	
8	ON	SDB(TXB)とRDB(RXB)の短絡:する	
9	ON	DS/DTS) 白動制御王 _ ド・方効	
10	ON	KS(KIS) 日動向地で一下、 有効	

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。

💰 ようこそ GP-Pro EX 🔨		×
GP-Pro 🛃	接続機器設定 接続機器数 1 <u>二</u> <u>#</u>	
	接続機器1	
	メーカー (株)キーエンス	•
	シリーズ KV-700/1000/3000/5000 CPU直結	▼
	ポート COM1	▼
	この接続機器のマニュアルを見る	
	最近使った接続機器	
	4	
	□ システムエリアを使用する	<u>機器接続マニュアルへ</u>
	戻る (B)通信設定	ミニーズース画面作成 キャンセル

設定項目	設定内容
接続機器数	設定するシリーズ数を「1~4」で入力します。
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「(株)キーエンス」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種(シリーズ)と接続方法を選択します。「KV-700/1000/3000/ 5000 CPU 直結」を選択します。 「KV-700/1000/3000/5000 CPU 直結」で接続できる接続機器はシステム構成で確認して ください。 ^{③デ} 「1 システム構成」(3ページ)
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。
	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス(メモリ)を同期させる場合に チェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切 り替えたりウィンドウを表示させることができます。
システムエリアを	参照:GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専 用エリア)」
使用する	この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。
	参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「システム設定 [本体設定] - [システムエ リア設定] の設定ガイド」
	参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「本体設定 - システムエリア設定」

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

新聞会	,					
通信方式	RS232C	C RS422/485(2#	記) (RS422/485(4	泉式)	
通信速度	19200	-				
データ長	C 7	© 8				
パリティ	C なし	€ 偶数	C 奇勢	汝		
ストップビット	© 1	C 2				
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/OTS)	с хо	N/XOFF		
タイムアウト	3 .	(sec)				
リトライ	2 .					
送信ウェイト	0 -	(ms)				
RI / VCC		C VCC				
RS232Cの場合 にオるかち避免	、9番ピンをRI(入力) できます。デジカル制	にするかVCC(5V電源)	供給)			
トを使用する場	ccago, Johna 合は、VCCを選択し	てください。	·	初期	設定	
機器別設定						
447/24	125 188	男 士 à pho				

мемо

• 通信速度は、KV-700 シリーズの場合は 9600 ~ 57600 まで、KV-1000 シリーズの場合は 9600 ~ 115200 まで設定できます。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mm([設定]) をクリックします。

💰 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/1000 シリーズを変更した場合は、すでに使用され いるアドレスを再確認してください。	ד ות
20月月日	
OK(Q) キャンセル	

接続機器の設定

接続機器側の設定はありません。通信速度は表示器の設定にあわせて自動で切り替わります。

3.2 設定例 2

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1	
概要	接続機器変更
メーカー 【(株)キーエンス ジリーズ 【KV-700/1000/3000/5000 CPU直結	ポート COM1
文字列データモード 2 変更	
通信設定	
通信方式 © RS232C C RS422/485(2線式) O RS422/485(4線式)	
通信速度 19200 💌	
データ長 〇7 ⑥8	
パリティ C なし C 偶数 C 奇数	
ストップビット の1 の2	
フロー制御 🕫 なし C ER(DTR/GTS) C XON/XOFF	
タイムアウト 3 芸 (sec)	
<u> ሀኑ</u> ታ	
送信ウェイト 0 📩 (ms)	
RI/VCC © RI © VCC	
RS232Cの場合、9番ビンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)	
にするがを運催してきます。テンダル製AG232Cアインレーションエーサ トを使用する場合は、VCCを選択してください。 初期設定	
機器別設定	
接続可能台数 1台 機器を追加	
No 继号·2. 野宁	間接機器
▼ 1 PIC1	

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mm([設定]) をクリックします。

💣 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/1000 シリーズを変更した場合は、すでに使用 いるアドレスを再確認してください。	▼ Iされて
20月1日	設定
OK(<u>O</u>) キャンセ	ŀ

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) ユニット構成を設定するかどうかの選択が表示されます。[はい]をクリックし、[ユニットエ ディタ]ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ& ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

	設定項目	設定内容
	動作モード	KV BUILDER モード
	インタフェース	RS-232C
	ボーレート	自動
	データビット長	8ビット
ポート 1	スタートビット	1ビット
	ストップビット	1ビット
	パリティ	偶数
	チェックサム	なし
	RS/CS フロー制御	しない

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。

(10)[Yes] をクリックします。

- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.3 設定例 3

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器変更
メーカー (株)キー:	エンス	シリーズ [KV-700/1000/3000/5000 CP	U直結 ポート COM1
文字列データモー	ド 2 <u>変更</u>			
通信設定				
通信方式	RS232C	C RS422/4850	2線式) C RS422/485(4約	(元泉
通信速度	19200	-		
データ長	C 7	© 8		
パリティ	€ なし	€ 偶数	C 奇数	
ストップビット	© 1	C 2		
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/OT	s) C XON/XOFF	
タイムアウト	3 🗄	(sec)		
リトライ	2 :	1		
送信ウェイト	0 🗄	(ms)		
RI / VCC	⊙ RI	C VCC		
RS232Cの場合、 にするかを選択?	9番ピンをRI(入力))にするか VCC (5 V電)	原供給)	
トを使用する場合	含は、VCCを選択し	てください。	初期	設定
機器別設定				
接続可能台数	1台 機器	器を追加		
No 椰器夕	設定			間接機器
1 PLC1		ズ=KV-700/1000		

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mm([設定]) をクリックします。

🏄 個別機器設定	х
PLC1	
シリーズ KV-700/1000 シリーズを変更した場合は、すでに使用され いるアドレスを再確認してください。	₹ T
初期設定	
OK(Q) キャンセル]

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) ユニット構成を設定するかどうかの選択が表示されます。[はい]をクリックし、[ユニットエ ディタ]ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20R」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ &ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20R」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

	設定項目	設定内容
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード
	インタフェース	RS-232C
	ボーレート	自動
	データビット長	8ビット
ポート 1	スタートビット	1ビット
	ストップビット	1ビット
	パリティ	偶数
	チェックサム	なし
	RS/CS フロー制御	しない
局番	局番	0
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3

- (8) [変換]メニューから [リレー /DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。
- (10)[Yes] をクリックします。
- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.4 設定例 4

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				
メーカー ((株)キー:	エンス	シリーズ 🛛	(V-700/1000/3000/5000 CF	U直結 ポート COM1
文字列データモー	× 2 <u>変更</u>			
通信設定				
通信方式	RS232C	C RS422/485(2	線式) C RS422/485(4新	(元泉
通信速度	19200	•		
データ長	C 7	© 8		
パリティ	€ なし	€ 偶数	C 奇数	
ストップビット	© 1	O 2		
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/OTS	6) 🔿 XON/XOFF	
タイムアウト	3 🗄	(sec)		
リトライ	2 :			
送信ウェイト	0 -	(ms)		
RI / VCC	● RI	O VCC		
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするか VCC (5 V電)	原供給)	
トを使用する場合	ごさます。テンタル裂 含は、VCCを選択し	RS2320アイソレーショ てください。	3ンユニッ ネカ期	設定
機器別設定				
接続可能台数	1台 機器	器を追加		
11 - 488 9 0 /5	= 1			間接機器
	設定			追加
A PLOT	129-	X=KV-700/1000		*

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の 🔐([設定]) をクリックします。

🏄 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/1000 シリーズを変更した場合は、すでに使用 いるアドレスを再確認してください。	・ されて
初期	定
OK(<u>0</u>) キャンセノ	L I

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名]に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種]から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) ユニット構成を設定するかどうかの選択が表示されます。[はい]をクリックし、[ユニットエ ディタ]ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ& ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

	設定項目	設定内容
	動作モード	KV BUILDER モード
	インタフェース	RS-232C
	局番	0
	ボーレート	自動
ポート 2	データビット長	8ビット
	スタートビット	1ビット
	ストップビット	1ビット
	パリティ	偶数
	チェックサム	なし

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。

(10)[Yes] をクリックします。

- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.5 設定例 5

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

T
_

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mm([設定]) をクリックします。

💣 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/1000 シリーズを変更した場合は、すでに使用され いるアドレスを再確認してください。	▼ て
初期設定	
OK(Q) キャンセル]

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) ユニット構成を設定するかどうかの選択が表示されます。[はい]をクリックし、[ユニットエ ディタ]ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20R」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ &ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20R」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

	設定項目	設定内容
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード
	インタフェース	RS-232C
	ボーレート	自動
#_⊾ว	データビット長	8ビット
<u> </u>	スタートビット	1ビット
	ストップビット	1ビット
	パリティ	偶数
	チェックサム	なし
局番	局番	0
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。

(10)[Yes] をクリックします。

- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.6 設定例 6

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1		
概要		接続機器変更
メーカー ((株)キーエンス	シリーズ KV-700/1000/3000/5000 CPU直結	; ポート <mark>СОМ1</mark>
文字列データモード 2 変更		
通信設定		
通信方式 C RS232	C RS422/485(2線式) • RS422/485(4線式)	
通信速度 19200	•	
データ長 0-7	@ 8	
パリティ C なし	 ・ 偶数 ・ 合数 	
ストップビット 💿 1	C 2	
フロー制御 📧 なし	C ER(DTR/GTS) C XON/XOFF	
タイムアウト 3	: (sec)	
リトライ 2		
送信ウェイト 0	:: (ms)	
RI / VCC C RI	C VCC	
RS232Cの場合、9番ピンをRI()	へ力)にするかVCC(5V電源供給)	
トを使用する場合は、VCCを選	が取っているとして、インクレーションユニック 「択してください。 初期設定	1
		_
接続可能台数 1台	機器を追加	
No 槌界之 副	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	間接機器
	/II - 7"=K\/-700/1000	

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の 🟬([設定]) をクリックします。

💣 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/1000 シリーズを変更した場合は、すでに使用 いるアドレスを再確認してください。	- Itant
初期	設定
OK(<u>O</u>) キャンセノ	L I

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) ユニット構成を設定するかどうかの選択が表示されます。[はい]をクリックし、[ユニットエ ディタ]ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ& ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

	設定項目	設定内容		
	動作モード	KV BUILDER モード		
ポート 2	インタフェース	RS-422A		
	局番	0		
	ボーレート	自動		
	データビット長	8 ビット		
	スタートビット	1 ビット		
	ストップビット	1 ビット		
	パリティ	偶数		
	チェックサム	なし		

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。

(10)[Yes] をクリックします。

- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.7 設定例 7

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1		
概要		接続機器変更
メーカー (株)キーエンス	シリーズ KV-700/1000/3000/5000 CPU直約	吉 ポート COM1
文字列データモード 2 変更	I	
通信設定		
通信方式 C RS232	20 C RS422/485(2線式) C RS422/485(4線式)	
通信速度 19200	•	
データ長 07	© 8	
Rufr C tab	● 偶数 ○ 奇数	
ストップビット 💿 1	C 2	
70〜制御 📧 なし	C ER(DTR/CTS) C XON/XOFF	
タイムアウト 3	÷ (sec)	
リト ラ イ 2	÷	
送信ウェイト 0	🗄 (ms)	
RI / VCC C RI	C VCC	
RS232Cの場合、9番ピンをRI() にするかを避視できます。 デジル	入力)にするかVCC(5V電源供給)	
ドを使用する場合は、VCCを運	が表いることでパイラレーションユニック 記択してください。 初期設定	1
機器別設定		
接続可能台数 1台	機器を追加	
No 継程之 副		間接機器

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mp([設定]) をクリックします。

💣 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/10 シリーズを変更した場合は、 いるアドレスを再確認してく	00 👤 すでに使用されて ださい。
	初期設定
OK(Q)	キャンセル

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) ユニット構成を設定するかどうかの選択が表示されます。[はい]をクリックし、[ユニットエ ディタ]ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20R」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ &ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20R」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

設定項目		設定内容		
ポート 2	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード		
	インタフェース	RS-422A/485(4 線式)		
	ボーレート	自動		
	データビット長	8ビット		
	スタートビット	1ビット		
	ストップビット	1ビット		
	パリティ	偶数		
	チェックサム	なし		
局番	局番	0		
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3		

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。

(10)[Yes] をクリックします。

- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.8 設定例 8

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器変更
メーカー ((株)キーエン	ス	シリーズ K	V-700/1000/3000/5000 CF	PU直結 ポート COM1
文字列データモード	2 変更			
通信設定				
通信方式	RS232C	C RS422/485(2)	線式) C RS422/485(4新	泉式)
通信速度	19200	•		
データ長	O 7	© 8		
パリティ	€ なし	€ 偶数	C 奇数	
ストップビット	@ 1	C 2		
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/GTS) C XON/XOFF	
タイムアウト	3 .	(sec)		
リトライ	2 🔅			
送信ウェイト	0 🔆	(ms)		
RI / VCC	• RI	O VCC		
RS232Cの場合、94	番ピンをRI(入力)(ます、 デジカル 御郎	こするか VCC (5 V電源	(供給)	
トを使用する場合は	L VCCを選択して	いってい。 てください。	シュニッシンシンシンシンシンシンシンシンシンシンシンシンシンシンシンシンシンシンシン	設定
機器別設定				
接続可能台数 1	台機器	身を追加		
No 继程之	設定			間接機器
	EXAL	- K) (300 (1000		

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mm([設定]) をクリックします。

🏄 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/1000 シリーズを変更した場合は、すでに使用 いるアドレスを再確認してください。	■されて
2刀期	設定
OK(Q) キャンセ	n

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) [ユニット構成設定の確認]ダイアログボックスで[はい]をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ &ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20V」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

	設定項目	設定内容		
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード		
	インタフェース	RS-232C		
	ボーレート	自動		
	データビット長	8ビット		
ポート 1	スタートビット	1ビット		
	ストップビット	1ビット		
	パリティ	偶数		
	チェックサム	なし		
	RS/CS フロー制御	しない		
局番	局番	0		
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3		

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。
- (10)[Yes] をクリックします。
- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.9 設定例 9

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器変更
メーカー ((株)キーエ	ンス	シリーズ [KV-700/1000/3000/5000 C	PU直結 ポート COM1
文字列データモード	2 変更			
通信設定				
通信方式	RS232C	C RS422/4850	2線式) C RS422/485(4	線式)
通信速度	19200	▼		
データ長	O 7	© 8		
パリティ	€ なし	€ 偶数	C 奇数	
ストップビット	© 1	C 2		
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/OT	s) 🕐 Xon/Xoff	
タイムアウト	3 🔅	(sec)		
リトライ	2 🔅			
送信ウェイト	0 .	(ms)		
RI / VCC	• RI	O VCC		
RS232Cの場合、9 にするかを選択でき	9番ピンをRI(入力)	にするかVCC(5V電) PS232Cアイソルージ	原供給)	
トを使用する場合	は、VCCを選択し	てください。	コンエニッ 初期	1設定
機器別設定				
接続可能台数	1台 機器	景を追加		
No 樔器么	静定			間接機器
1 PLC1		ズ=KV-700∕1000		

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の 🟬([設定]) をクリックします。

💣 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/11 シリーズを変更した場合は いるアドレスを再確認してく	000 👤
	初期設定
OK(<u>O</u>)	キャンセル

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名]に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種]から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) [ユニット構成設定の確認]ダイアログボックスで[はい]をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20V」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

設定項目		設定内容		
ポート 2	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード		
	インタフェース	RS-232C		
	ボーレート	自動		
	データビット長	8ビット		
	スタートビット	1ビット		
	ストップビット	1ビット		
	パリティ	偶数		
	チェックサム	なし		
局番	局番	0		
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3		

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。
- (10)[Yes] をクリックします。
- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.10 設定例 10

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変更
メーカー ((株)キーエン	ス	シリーズ 🕅	v-700/1000/30	100/5000 CPU直結	ポート COM1
文字列データモード	2 <u>変更</u>				
通信設定					
通信方式	C RS232C	C RS422/485(2#	泉式) • RS	6422/485(4線式)	
通信速度	19200	•			
データ長	O 7	© 8			
パリティ	€ なし	ⓒ 偶数	C 奇數		
ストップビット	@ 1	C 2			
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/OTS)	C XON/X	OFF	
タイムアウト	3 :	(sec)			
リトライ	2 :				
送信ウェイト	0 🗄	(ms)			
RI / VCC	© RI	C VCC			
RS232Cの場合、9種 にするかを選択でき	番ピンをRI(入力)(こするかVCCのV電源	(供給)		
トを使用する場合は	Lyonを選択して 、VCCを選択して	いってい。 てください。	1_7	初期設定	
機器別設定					
接続可能台数 1	台 機器	を追加			
No 榫铝之	設定				間接機器
1 PLC1		(=KV-700/1000			

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mp([設定]) をクリックします。

🏄 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/1000 シリーズを変更した場合は、すでに使用され いるアドレスを再確認してください。	י וכ
初期語受力	
OK(Q) キャンセル	

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名]に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種]から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) [ユニット構成設定の確認]ダイアログボックスで[はい]をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20V」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

	設定項目	設定内容
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード
	インタフェース	RS-422A/485(4 線式)
	ボーレート	自動
#_⊾ว	データビット長	8ビット
小一下2	スタートビット	1ビット
	ストップビット	1ビット
	パリティ	偶数
	チェックサム	なし
局番	局番	0
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。
- (10)[Yes] をクリックします。
- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.11 設定例 11

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器変更
メーカー ((株)キーエン)	2	シリーズ KV	-700/1000/3000/5000 CPU	回結 ポート COM1
文字列データモード	2 <u>変更</u>			
通信設定				
通信方式	RS232C	C RS422/485(2線	武) ORS422/485(4線式	D)
通信速度	19200	•		
データ長	C 7	© 8		
パリティ	C なし	€ 偶数	C 奇数	
ストップビット	@ 1	C 2		
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/GTS)	C XON/XOFF	
タイムアウト	3	(sec)		
リトライ	2 :			
送信ウェイト	0 .	(ms)		
RI / VCC	• RI	C VCC		
RS232Cの場合、9番 にするかを選択でき	まピンをRI(入力)(ます、デジタル制度	こするかVCC(5V電源(25232Cアイソルーション	共給) コニッ	
トを使用する場合は	、VCCを選択して	てださい。	ユニッ 初期語受3	ŧ
機器別設定				
接続可能台数 1台	★ 機器	を追加		
No 禅器名	設定			間接機器
1 PLC1		(=KV-3000/5000		

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mm([設定]) をクリックします。

💣 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-3000/5000 シリーズを変更した場合は、すでに使用され いるアドレスを再確認してください。	
20其相語分詞	È
OK(Q) キャンセル	

接続機器の設定

接続機器側の設定はありません。通信速度は表示器の設定にあわせて自動で切り替わります。

3.12 設定例 12

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要	· ·		() (200 /1000 /0000 /		<u>接続機器変更</u>
メーカー M本/キーエ 文字列デーカモード	ノス : 「 <u>2</u> 変重		(V-700/1000/3000/)		
	1- 22				
通信設定	BS232C	C RSA00 /AR5/	(dist) C R\$422	/495(4 約式)	
通信決度	19200	 N0422740012 	10422	., 400 (4 lbk) ().	
データ長	07	© 8			
パリティ	C なし	€ 偶数	C 奇数		
ストップビット	© 1	O 2			
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/OT	5) 🕐 XON/XOFF		
タイムアウト	3 -	(sec)			
リトライ	2 :				
送信ウェイト	0 :	(ms)			
RI / VCC		O VCC			
RS232Cの場合、 にするかを選択で	9番ピンをRI(入力) きます。デジタル製	にするかVCC(5V電) RS232Cアイソレーシ	原供給) コンフェッ		
トを使用する場合	は、VCCを選択し	てください。		初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	1台 機器	景を追加			88147888
No. 機器名	設定				間接機器 追加
👗 1 PLC1	DU-	X=KV-3000/5000			\$

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mp([設定]) をクリックします。

🎸 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-3000/5000 シリーズを変更した場合は、すでに いるアドレスを再確認してください。	▼ 使用されて
ŧ	「期設定」
OK(<u>0</u>) ≠+	ンセル

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名]に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種]から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) [ユニット構成設定の確認]ダイアログボックスで[はい]をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ &ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20V」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

	設定項目	設定内容
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード
	インタフェース	RS-232C
	ボーレート	自動
	データビット長	8ビット
ポート 1	スタートビット	1ビット
	ストップビット	1ビット
	パリティ	偶数
	チェックサム	なし
	RS/CS フロー制御	しない
局番	局番	0
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。
- (10)[Yes] をクリックします。
- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.13 設定例 13

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要				接続機器変	更
メーカー ((株)キーエン	え	シリーズ 下	/-700/1000/3000/500	D CPU直結 ポート COM1	_
文字列データモード	2 変更				
通信設定					
通信方式	RS232C	C RS422/485(2)	泉武) C RS422/48	5(4線式)	
通信速度	19200	•			
データ長	C 7	© 8			
パリティ	C なし	€ 偶数	C 奇数		
ストップビット	© 1	C 2			
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/OTS)	C XON/XOFF		
タイムアウト	3 🔅	(sec)			
リトライ	2 :				
送信ウェイト	0 🔅	(ms)			
RI / VCC		C VCC			
RS232Cの場合、94 にするかを避けでき	番ピンをRI(入力) ます。デジタル制度	にするかVCC(5V電源	供給)		
トを使用する場合は	t, VCCを選択し	いっこうこう アイ クレークヨ. てください。		初期設定	
機器別設定					
接続可能台数 1	台 機器	景を追加			
No 框架之	設定			間接機器	
	EXAE	7-41/-2000/5000			

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mp([設定]) をクリックします。

🏄 個別機器設定	X
PLC1	
シリーズ KV-3000/5000 シリーズを変更した場合は、すでに使用され いるアドレスを再確認してください。	・ hて
20月1日分子	Ē
OK(Q) キャンセル	

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名]に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種]から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) [ユニット構成設定の確認]ダイアログボックスで[はい]をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20V」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

	設定項目	設定内容
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード
	インタフェース	RS-232C
	ボーレート	自動
ポート?	データビット長	8ビット
小一下2	スタートビット	1 ビット
	ストップビット	1ビット
	パリティ	偶数
	チェックサム	なし
局番	局番	0
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。
- (10)[Yes] をクリックします。
- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.14 設定例 14

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変更
メーカー (株)キーI	ンス	シリーズ [(V-700/1000/30	000/5000 CPU直結	ポート COM1
文字列データモード	: 2 <u>変更</u>				
通信設定					
通信方式	C RS232C	C RS422/4850	線式) 🖲 🕏	S422/485(4線式)	
通信速度	19200	•			
データ長	O 7	© 8			
パリティ	○ なし	€ 偶数	C 奇数		
ストップビット	© 1	C 2			
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/OT	5) o xon/>	OFF	
タイムアウト	3 🔆	(sec)			
リトライ	2 :				
送信ウェイト	0 🔅	(ms)			
RI / VCC	© RI	C VCC			
RS232Cの場合、 にするかを選択で トを使用する場合	9番ピンをRI(入力) きます。デジタル製 ;は、VOCを選択し	にするか VOC (5 V電) RS232C アイソレーショ てください。	原供給) ョンユニッ	加期時公会	
4828日1日25年				T/J#JEXAE	
接続可能台数	1台 機器	景を追加			
					間接機器
No. 機器名					追加
1 PLC1	111 シリー:	ズ=KV-3000/5000			\$

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mm([設定]) をクリックします。

💕 倡別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-3000/50 シリーズを変更した場合は、 いるアドレスを再確認してくだ	00 👤 すでに使用されて さい。
	初期設定
OK(<u>O</u>)	キャンセル

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.4 以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名]に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種]から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) [ユニット構成設定の確認]ダイアログボックスで[はい]をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ &ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20V」をダブルクリックします。
- (7) 表示された [ユニット設定] タブで、以下のように通信設定を行います。

設定項目		設定内容
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード
	インタフェース	RS-422A/485(4 線式)
	ボーレート	自動
#_⊾ว	データビット長	8ビット
<u> </u>	スタートビット	1ビット
	ストップビット	1ビット
	パリティ	偶数
	チェックサム	なし
局番	局番	0
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3

- (8) [変換]メニューから[リレー/DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。

(10)[Yes] をクリックします。

- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.15 設定例 15

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器変更
メーカー ((株)キー:	ロンス	シリーズ	KV-700/1000/3000/5000 CI	PU直結 ポート COM1
文字列データモート	× 2 <u>変更</u>			
通信設定				
通信方式	RS232C	C RS422/4850	2線式) C RS422/485(4)	線式)
通信速度	19200	•		
データ長	C 7	© 8		
パリティ	€ なし	€ 偶数	C 奇数	
ストップビット	© 1	C 2		
フロー制御	€ なし	C ER(DTR/OT	s) C XON/XOFF	
タイムアウト	3 :	(sec)		
リトライ	2 :			
送信ウェイト	0 🚊	(ms)		
RI / VCC	RI	O VCC		
RS232Cの場合、 にするかを選択?	9番ピンをRI(入力) ****オーデジタル制(にするかVCC(5V電) PS232Cアイソレージ	源供給)	
トを使用する場合	alt, VCCを選択し	てください。	コンエニッ 初期	1設定
機器別設定				
接続可能台数	1台 機器	景を追加		
No 禅器名	設定			間接機器
1 PLC1		ズ=KV-3000/5000		

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の 🟬([設定]) をクリックします。

🏄 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-3000/5000 シリーズを変更した場合は、すでに いるアドレスを再確認してください。	▼
	初期設定
OK(<u>O</u>) *•	rンセル

注意事項

• KV-5500 シリーズを使用する場合は[シリーズ]から「KV-3000/5000」を選択してください。

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.6以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) [ユニット構成設定の確認]ダイアログボックスで[はい]をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ &ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20V」をクリックし、[ユニット設定]タブを選択します。
- (7) 以下のように設定項目を設定します。

設定項目		設定内容
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード
	インタフェース	RS-232C(固定)
	ボーレート	自動(固定)
	データビット長	8 ビット(固定)
ポート 1	スタートビット	1 ビット(固定)
	ストップビット	1 ビット(固定)
	パリティ	偶数(固定)
	チェックサム	なし(固定)
	RS/CS フロー制御	しない
基本	局番	0
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3(固定)

- (8) [変換]メニューから [リレー /DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。
- (10)[はい]をクリックします。
- (11)[モニタ / シミュレータ]メニューから [PLC 転送]を選択し、[プログラム転送]ダイアログボックスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.16 設定例 16

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1	
概要	<u>新機器変更</u>
メーカー (株)キーエンス シリーズ (KV-700/1000/3000/5000 CPU直結 ポート COI	41
文字列データモード 2 変更	
通信設定	
通信方式	
通信速度 19200 👤	
データ長 〇 7 ④ 8	
NJFr C なし C 偶数 C 奇数	
ストップビット © 1 C 2	
7ロー制御 🕫 なし 🥂 ER(DTR/GTS) 🔿 XON/XOFF	
タイムアウト 3 🚊 (sec)	
リトライ 2 <u>÷</u>	
送信ウェイト 0 🔆 (ms)	
RI/VCC © RI © VCC	
RS232Cの場合、9番ビンをRI(入力)にするかVCCGV電源供給)	
トを使用する場合は、VOCを選択してください。 初期設定	
接続可能台数 1台 機器を追加	
No 禅器名 副宝 間接機器	
1 PLC1 アレーズ=KV-3000/5000 (4)	

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mm([設定]) をクリックします。

💣 個別機器設定	x
PLC1	
シリーズ KV-3000/5000 シリーズを変更した場合は、すでに使用されて いるアドレスを再確認してください。	
初期設定	
OK(Q) キャンセル	

注意事項

• KV-5500 シリーズを使用する場合は[シリーズ]から「KV-3000/5000」を選択してください。

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.6以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) [ユニット構成設定の確認]ダイアログボックスで[はい]をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20V」をクリックし、[ユニット設定]タブを選択します。

(7) 以下のように設定項目を設定します。

設定項目		設定内容	
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード	
	インタフェース	RS-232C	
	ボーレート	自動(固定)	
ポート2	データビット長	8 ビット(固定)	
<u> </u>	スタートビット	1 ビット(固定)	
	ストップビット	1 ビット(固定)	
	パリティ	偶数(固定)	
	チェックサム	なし(固定)	
基本	局番	0	
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3(固定)	

- (8) [変換]メニューから [リレー /DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。
- (10)[はい]をクリックします。
- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

3.17 設定例 17

GP-Pro EX の設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の 🏬([設定]) をクリックします。

🏄 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-3000/5000 シリーズを変更した場合は、すでに いるアドレスを再確認してください。	▼
	初期設定
OK(<u>O</u>) *•	rンセル

注意事項

• KV-5500 シリーズを使用する場合は[シリーズ]から「KV-3000/5000」を選択してください。

接続機器の通信設定は(株)キーエンス製のラダーソフト(KV STUDIO Ver.6以降)で行います。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- (1) ラダーソフトを起動します。
- (2) [ファイル]メニューから [プロジェクトの新規作成]を選択し、[プロジェクト新規作成]ダイア ログボックスを表示します。
- (3) [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択 して [OK] をクリックします。
- (4) [ユニット構成設定の確認]ダイアログボックスで[はい]をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- (5) [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-L20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- (6) ユニット配置エリアの「KV-L20V」をクリックし、[ユニット設定]タブを選択します。

(7) 以下のように設定項目を設定します。

設定項目		設定内容
	動作モード	KV BUILDER/KV STUDIO モード
	インタフェース	RS-422A/485(4 線式)
	ボーレート	自動(固定)
ポート2	データビット長	8 ビット(固定)
<u> </u>	スタートビット	1 ビット(固定)
	ストップビット	1 ビット(固定)
	パリティ	偶数(固定)
	チェックサム	なし(固定)
基本	局番	0
詳細設定	転送タイムアウト時間 (秒)	3(固定)

- (8) [変換]メニューから [リレー /DM 自動割付]を選択します。
- (9) [ファイル]メニューから [閉じる]を選択し、[ユニットエディタ]ダイアログボックスを表示します。
- (10)[はい]をクリックします。
- (11)[モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボッ クスを表示します。
- (12)[ユニット設定情報]と[プログラム]にチェックをつけて、[実行]をクリックします。設定情報 が転送されます。

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。 各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

4.1 GP-Pro EX での設定項目

通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1			
概要			接続機器変更
メーカー ((株)キーエンス	シリーズ KV-70	0/1000/3000/5000 CPU直結	ポート COM1
文字列データモード 2	<u>変更</u>		
通信設定			
通信方式 💽 F	S232C C RS422/485(2線式)	〇 RS422/485(4線式)	
通信速度 192	00 💌		
データ長 07	© 8		
パリティ C が	しので偶数	C 奇数	
ストップビット 💿 1	C 2		
フロー制御 💿 な	L C ER(DTR/CTS)	C XON/XOFF	
タイムアウト 3	(sec)		
リトライ 2	-		
送信ウェイト 0	: (ms)		
RI / VCC			
RS232Cの場合、9番ピン にするかち避免できます。	をRI(入力)にするかVCCのV電源供給	<u>p</u>	
トを使用する場合は、VCG	ンを選択してください。	初期設定	
機器別設定			
接続可能台数 1台	機器を追加		
No 機器名	設定		間接機器
1 PLC1			

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間(s)を「1 ~ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0~255」 で入力します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間(ms)を 「0~255」で入力します。
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。 IPC と接続する場合は IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳 細は IPC のマニュアルを参照してください

MEMO

間接機器については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照:GP-Pro EX リファレンスマニュアル「運転中に接続機器を切り替えたい(間接機器指定)」

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の 🏬 ([設定]) をクリックします。

💰 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ KV-700/1000 シリーズを変更した場合は、すでに使用されて いるアドレスを再確認してください。	2
初期設定	
OK(Q) キャンセル	

設定項目	設定内容
シリーズ	接続機器のシリーズを選択します。

4.2 オフラインモードでの設定項目

MEMO ・ オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してく ださい。

参照:保守/トラブル解決ガイド「オフラインモードについて」

 オフラインモードは使用する表示器によって1画面に表示できる設定項目数が異な ります。詳細はリファレンスマニュアルを参照してください。

通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの[周辺機器設定]から[接続機器設定]をタッチしま す。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
KV-700/1000/300	0/5000 CPU直結		[COM1]	Page 1/1
	通信方式 通信速度 データ長 パリティ ストップビット フロー制御	RS2320 19200 8 偶数 1 なし		
	タイムアウト(s) リトライ 送信ウェイト(ms)		3 ▼ ▲ 2 ▼ ▲ 0 ▼ ▲	
	終了		戻る	2008/01/30 02:43:17

設定項目	設定内容	
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。 重要 通信設定を行う場合、[通信方式]は表示器のシリアルインターフェイスの仕様 を確認し、正しく設定してください。 シリアルインターフェイスが対応していない通信方式を選択した場合の動作は保 証できません。 シリアルインターフェイスの仕様については表示器のマニュアルを参照してくだ さい。	
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。	

次のページに続きます。

設定項目	設定内容		
データ長	データ長が表示されます。		
パリティ	パリティチェックの方法が表示されます。		
ストップビット	ストップビット長が表示されます。		
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式です。		
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間(s)を「1 ~ 127」で入力します。		
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0~ 255」で入力します。		
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms)を「0 ~ 255」で入力します。		

機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定]から[接続機器設定]をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定]をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
KV-700/1000/300	0/5000 CPU直結		[COM1]	Page 1/1
接続機	器名 PLC	01		-
	シリーズ	KV-700/10	00	
	終了		戻る	2008/01/30 02:43:22

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の 名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	接続機器のシリーズを表示します。

オプション

設定画面を表示するには、[周辺機器設定]から[接続機器設定]をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[オプション]をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
KV-700/1000/300	0/5000 CPU直結		[COM1]	Page 1/1
	RI / VCC RS232Cの場合 かVCC(5V電) す。デジタノ ユニットを付 てください。	● RI 含、9番ピンをRI(J 原供給)にするかを レ製RS2320アイソレ 更用する場合は、V	○ VCC (力)にする 選択できま ノーション CCを選択し	0880 /81 /08
	終了		戻る	2008/01/30 02:43:27

設定項目	設定内容		
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。 IPC と接続する場合は IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要がありま す。詳細は IPC のマニュアルを参照してください		
MEMO • C	AP-4100 シリーズおよび GP-4*01TM の場合、オフラインモードに [オプション] の 設定はありません。		

以下に示す結線図と(株)キーエンスが推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線 図でも動作上問題ありません。

- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照して ください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成 されないようにシステムを設計してください。
- ノイズなどの影響で通信が安定しない場合はアイソレーションユニットを接続してください。

結線図 1

表示器 (接続ポート)		ケーブル	備考
GP3000 (COM1) GP4000 ¹ (COM1) ST (COM1) IPC ² PC/AT	1A	(株)キーエンス製 Dsub9Pin コネクタ OP-26486 + (株)キーエンス製 モジュラケーブル OP-26487 (2.5m)	
GP-4105 (COM1)	1B	自作ケーブル + (株)キーエンス製 Dsub9Pin コネクタ OP-26486 + (株)キーエンス製 モジュラケーブル OP-26487 (2.5m)	

1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

2 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。 ^② IPC の COM ポートについて(5 ページ)

1A)





表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 (COM1) GP4000 ¹ (COM1) ST (COM1) IPC ² PC/AT	2A	自作ケーブル	ケーブル長は 15m 以内にしてく ださい。
GP-4105 (COM1)	2B	自作ケーブル	

1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

2A)





表示器 (接続ポート)		ケーブル	備考
GP3000 (COM1) GP4000 ¹ (COM1) ST (COM1) IPC ² PC/AT	3A	自作ケーブル	ケーブル長は 15m 以内にしてく ださい。
GP-4105 (COM1)	3B	自作ケーブル	

1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

3A)





表示器 (接続ポート)		ケーブル	備考
GP3000 ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST ² (COM2) IPC ³	4A	 (株)デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株)デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル 	
	4B	自作ケーブル	
GP3000 ¹ (COM2)	4C	(株)デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株)デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてください。
	4D	(株)デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	4E	自作ケーブル	
GP4000 ⁴ (COM2) GP-4201T (COM1)	4F	(株)デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 ⁵ + 自作ケーブル	
	4B	自作ケーブル	

1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

- 3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。 「ア IPC の COM ポートについて (5ページ)
- 4 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種
- 5 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する 場合、4A の結線図を参照してください。

 ● 接続機器側の PORT2 切換スイッチを "422A 485(4)" に設定してください。また終端 抵抗スイッチを ON にしてください。
 ● 表示器と接続機器とでは、A 極と B 極の呼称が逆になっていますのでご注意ください。







4D)

4C)



自作ケーブル



*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを 以下のように設定してください。

ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	ON
3	OFF
4	ON

4F)



6 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。ただし、実際にサポートされるデバイスの範囲は接続機器によって異なりますので、ご使用の接続機器のマニュアルで確認してください。

6.1 KV-700 シリーズ

□ はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー				
出力リレー	00000 - 59915	000 - 599	ΓL / H)	
内部補助リレー				
コントロールリレー	CR0000 - CR3915	CR00 - CR39		
タイマ(接点)	T000 - T511			
カウンタ(接点)	C000 - C511		-	
高速カウンタコンパレー タ(接点)	CTC0 - CTC3			1
タイマ(設定値)		TS000 - TS511		2
カウンタ(設定値)		CS000 - CS511		2
タイマ(現在値)		TC000 - TC511		2
カウンタ(現在値)		CC000 - CC511		2
データメモリ		DM00000 - DM39999		ві т15
テンポラリデータメモリ		TM000 - TM511		ві т15
コントロールメモリ		CM0000 - CM3999		ві т15
デジタルトリマ		TRM0 - TRM7		2
高速カウンタ(現在値)		CTH0 - CTH1		2
高速カウンタコンパレー タ(設定値)		CTC0 - CTC3		2

1 書込み不可

2 32Bit デバイス

虹要
 • KV-700 シリーズと接続する際は、上記デバイスアドレス範囲内でご使用ください。
 • KV-1000 シリーズのみサポートのデバイスアドレスにアクセスしようとすると、「読出し要求でエラー応答を受信しました(受信エラーコード:(02)[(0x02)])」もしくは「書込み要求でエラー応答を受信しました(受信エラーコード:(02)[(0x02)])」のエラーが表示されます。

- MEMO ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
 - 参照:GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」
 - 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞「表記のルール」

6.2 KV-1000 シリーズ

□ はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー				1
出力リレー	00000 - 59915	000 - 599		1
内部補助リレー			rL/H)	1
内部補助リレー	MR00000 - MR99915	MR000 - MR999		
ラッチリレー	LR00000 - LR99915	LR000 - LR999		
コントロールリレー	CR0000 - CR3915	CR00 - CR39		
タイマ(接点)	T0000 - T3999			
カウンタ(接点)	C0000 - C3999		_	
高速カウンタコンパレー タ(接点)	CTC0 - CTC3			2
タイマ(設定値)		TS0000 - TS3999		3
カウンタ(設定値)		CS0000 - CS3999		3
タイマ(現在値)		TC0000 - TC3999		3
カウンタ(現在値)		CC0000 - CC3999		3
データメモリ		DM00000 - DM65534		<u>вт</u> 15
拡張データメモリ EM		EM00000 - EM65534	ſ	<u>вт</u> 15
拡張データメモリ FM		FM00000 - FM32766	[L/H]	<u>вт</u> 15
テンポラリデータメモリ		TM000 - TM511		<u>вт</u> 15
コントロールメモリ		CM00000 - CM11998		<u>⊪⊤</u> 15]
インデックスレジスタ		Z01 - Z12		<u>ві</u> т 15 4
デジタルトリマ		TRM0 - TRM7		3
高速カウンタ(現在値)		CTH0 - CTH1		3
高速カウンタコンパレー タ(設定値)		CTC0 - CTC3		3

1 KV-1000 では R000 - R599 (R00000 - R59915)と表記されますが、GP-Pro EX では 000 - 599 (00000 - 59915)と表記します。

2 書込み不可

3 32Bit デバイス

4 Z11、Z12には書込みしないでください。接続機器側のシステムで使用します。

- MEMO・システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
 参照: GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」
 - ・表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。
 ⁽³⁾「表記のルール」

6.3 KV-3000/5000/5500 シリーズ

□ はシステムデータエリアに指定できます。

Ę	デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー					
出力リレー		R00000 - R99915	R000 - R999		
内部補助	リレー				
リンクリ	レー	B0000 - B3FFF	B000 - B3FF	L/H)	
内部補助	リレー	MR00000 - MR99915	MR000 - MR999		
ラッチリ	ν-	LR00000 - LR99915	LR000 - LR999		
コントロ・	ールリレー	CR0000 - CR3915	CR00 - CR39		
ワークリ	レー	VB0000 - VB3FFF	VB000 - VB3FF		
タイマ (接点)	T0000 - T3999			
カウンタ	(接点)	C0000 - C3999		-	
高速カウ タ(接点	ンタコンパレー)	CTC0 - CTC3			1
タイマ (設定値)		TS0000 - TS3999		2
カウンタ(設定値)			CS0000 - CS3999		2
タイマ(現在値)			TC0000 - TC3999		2
カウンタ	(現在値)		CC0000 - CC3999		2
データメモリ			DM00000 - DM65534		<u>вт</u> ,15)
拡張デー	タメモリ		EM00000 - EM65534	ř	_{в і 1} 5
ファイ	現バンク		FM00000 - FM32767		<u>ві t</u> 15
ルレジ スタ	シリアルナン バーシステム		ZF000000 - ZF131071	_L / H)	_{в і т} 15
テンポラ	リデータメモリ		TM000 - TM511		<u>вт</u> 15]
コントロ	ールメモリ		CM00000 - CM05999		<u>ві 1</u> 51
リンクレ	ジスタ		W0000 - W3FFF		Bit
ワークメモリ			VM00000 - VM59999		<u>вт</u> ,15)
インデックスレジスタ			Z01 - Z12		2 3
デジタル	トリマ		TRM0 - TRM7		2
高速カウ	ンタ(現在値)		CTH0 - CTH1		2
高速カウ: タ(設定	ンタコンパレー 値)		CTC0 - CTC3		2

1 書込み不可

2 32Bit デバイス

- 3 Z11、Z12には書込みしないでください。接続機器側のシステムで使用します。
 - MEMO
 システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
 参照: GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」
 - 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

^②「表記のルール」

7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードは、データ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アド レス」を設定している場合に使用します。

7.1 KV-700 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー			
出力リレー		0080	ワードアドレス
内部補助リレー			
コントロールリレー	CR	008A	ワードアドレス
タイマ(設定値)	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ(設定値)	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ(現在値)	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ(現在値)	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ	DM	0000	ワードアドレス
テンポラリデータメモリ	TM	0001	ワードアドレス
コントロールメモリ	СМ	0002	ワードアドレス
デジタルトリマ	TRM	0064	ダブルワードアドレス
高速カウンタ(現在値)	СТН	0065	ダブルワードアドレス
高速カウンタコンパレータ(設定値)	СТС	0066	ダブルワードアドレス

7.2 KV-1000 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー			
出力リレー		0080	ワードアドレス
内部補助リレー			
内部補助リレー	MR	0082	ワードアドレス
ラッチリレー	LR	0084	ワードアドレス
コントロールリレー	CR	008A	ワードアドレス
タイマ(設定値)	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ(設定値)	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ(現在値)	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ(現在値)	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ	DM	0000	ワードアドレス
拡張データメモリ	EM	0010	ワードアドレス
拡張データメモリ	FM	0011	ワードアドレス
テンポラリデータメモリ	ТМ	0001	ワードアドレス
コントロールメモリ	СМ	0002	ワードアドレス
インデックスレジスタ	Z	0003	ワードアドレス
デジタルトリマ	TRM	0064	ダブルワードアドレス
高速カウンタ(現在値)	СТН	0065	ダブルワードアドレス
高速カウンタコンパレータ(設定値)	CTC	0066	ダブルワードアドレス

7.3 KV-3000/5000/5500 シリーズ

	デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー				
出力リレー		R	0080	ワードアドレス
内部補助リレ-	-			
リンクリレー		В	008B	ワードアドレス
内部補助リレ-	_	MR	0082	ワードアドレス
ラッチリレー		LR	0084	ワードアドレス
コントロール・	ノレー	CR	008A	ワードアドレス
ワークリレー		VB	008C	ワードアドレス
タイマ(設定(直)	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ(設筑	定値)	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ(現在化	直)	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ(現れ	车値)	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ		DM	0000	ワードアドレス
拡張データメ	EIJ	EM	0010	ワードアドレス
77411	現バンク	FM	0011	ワードアドレス
ジスタ	シリアルナンバーシ ステム	ZF	0012	ワードアドレス
テンポラリデ・	ータメモリ	ТМ	0001	ワードアドレス
コントロール:	メモリ	СМ	0002	ワードアドレス
リンクレジス会	夕	W	0013	ワードアドレス
ワークメモリ		VM	0014	ワードアドレス
インデックスレジスタ		Z	0067	ダブルワードアドレス
デジタルトリマ		TRM	0064	ダブルワードアドレス
高速カウンタ	(現在値)	СТН	0065	ダブルワードアドレス
高速カウンタ:	コンパレータ(設定値)	CTC	0066	ダブルワードアドレス

8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号:機器名:エラーメッセージ(エラー発生箇所)」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器 の名称です。(初期値 [PLC1])
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。 MEMO • IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示 されます。 • デバイスアドレスは「アドレス:デバイスアドレス」のように表示されます。 • 受信エラーコードは「10 進数[16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:1[01H])」

MEMO	• 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
	• ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守/トラブル解決ガイド」の「表
	示器で表示されるエラー」を参照してください。

接続機器特有のエラーコード

エラーコード (HEX)	エラー内容
02	不正なアクセスを行なった。 ・書き込み不可デバイスに書き込みを行なった ・接続機器に存在しないデバイス、アドレスにアクセスした
04	接続機器がサポートしていない通信ボーレートで通信しようとした。
31	接続機器でデバイス定義していないデバイスにアクセスした。 1
0B	モニタ登録されていない状態でモニタ読み出しを行なった。

1 タイマ(接点/現在値/設定値)、カウンタ(接点/現在値/設定値)、高速カウンタ、 高速カウンタコンパレータ(設定値)に書き込みを行なう場合は、あらかじめラダー プログラムでの設定が必要です。